

# 第12回菊川水系流域委員会での 指摘事項とその対応

令和5年10月13日

国土交通省 中部地方整備局  
浜松河川国道事務所

# (1) 第12回菊川水系流域委員会 指摘対応表

## ●第12回菊川水系流域委員会 指摘対応表

| No. | 項目                 | 発言者   | 意見・指摘事項  | 回答  | 対応                |
|-----|--------------------|-------|--|---|-------------------|
| 1   | 菊川水系河川整備計画の進捗状況の点検 | 末次委員長 | 洪水浸水想定区域面積はL1か。L1の場合、L2の洪水浸水想定区域面積はどれくらいか。   | 洪水浸水想定区域面積は氾濫ブロック全体の面積を表している。   | 回答済み              |
| 2   |                    | 末次委員長 | グレー線の災害対応・追加整備は実施済みか。  | 実施済みである。  | 回答済み              |
| 3   |                    | 秋山委員  | 菊川には下水処理場等、人工的な処理水が入り込む場所があるのか。令和3年にBODが一時的に高いのは、農業用水が関係しているのか。  | 菊川には下水処理水はなく、農業用水によるものが多い。BODが高い要因は、河川流量が一時的に低下し、濃縮されたことが要因である。                   | 回答済み              |
| 4   |                    | 末次委員長 | 下小笠川下流で、整備計画策定時点よりも流下能力が低下している要因は何か。   | 土砂堆積によりものと思われる。現況の流下能力は整備計画流量を満足しているが、目標流下能力を下回る箇所が確認できれば、維持掘削で対応する予定である。         | 回答済み              |
| 5   |                    | 溝口委員  | 下小笠川の流下能力低下箇所の川幅はどうなっているか。川幅が広く、堆積しやすい箇所となっていないか。堆積しやすい箇所は継続的に掘削する必要がある。次期整備計画を検討する時は、河川全体でこれらの視点も踏まえて対策案を検討するとよい。 | 下小笠川は横断工作物による堆積の影響も考えられる。河道改修では横断工作物の改築も実施予定である。<br>土砂が堆積しにくい河道計画は重要課題であると認識している。 | 回答済み              |
| 6   |                    | 溝口委員  | 本川の水位低下に伴い、支川も水位は低下する。支川の評価については、本川による効果に加え、支川単独で評価する方法もあるとよい。   | —   | 評価方法は今後の検討の参考にする。 |
| 7   |                    | 溝口委員  | 菊川は川幅が狭いため、植生繁茂や土砂堆積の影響がすぐに出る河川である。そのため、河道改修後にどのような管理を行うかが重要になる。整備後もモニタリングを行い、対策に役立てる必要がある。                        | 土砂が堆積しにくい河道計画は重要課題であると認識している。河床変動計算による安定性の確認など行っていく予定である。                         | 回答済み              |
| 8   |                    | 末次委員長 | 改修後の摩擦速度が15%以上増えると堆積しやすいというこれまでの知見がある。これを参考にするとよい。   | —   | 評価方法は今後の検討の参考にする。 |

# (1) 第12回菊川水系流域委員会 指摘対応表

## ●第12回菊川水系流域委員会 指摘対応表

| No. | 項目             | 発言者   | 意見・指摘事項  | 回答   | 対応                      |
|-----|----------------|-------|--|--|-------------------------|
| 9   | 河口フラッシュ調査      | 末次委員長 | 現地観測に加え、既存データによる分析も重要である。衛星写真等を活用し、可能な限りフラッシュが発生した時点での流量を整理することが望ましい。                                      | —  | 今年度委員会で報告する。            |
| 10  |                | 溝口委員  | 河口砂州の発達要因の分析が重要である。冬季の季節風で砂が堆積する過程を考慮すると、春先の測量も実施した方がよい。   | —  | 今年度春に測量を実施。引き続き分析を行う。   |
| 11  |                | 溝口委員  | 本川流下能力について、河口から3.5km付近まで流下能力が低下している。水位上昇すると、掃流力が低下し、土砂堆積も促進することが想定され、治水上危険である。堆積スピードや要因分析を検討してほしい。         | 机上計算で河口砂州高が仮に50cm上がると5kpくらい水位上昇することを確認している。河口砂州による影響、状況把握は引き続き検討する必要があると考えている。 | 河川測量の結果を踏まえて堆積状況等を確認する。 |
| 12  |                | 山田委員  | 豊かな生物相、植生等の視点も重要であると考えられる。河口部のモニタリングでは、植生の記録も実施してもらおうと良い。  | 環境に配慮した対策も必要と考えており、植生の記録等のモニタリングは可能なため、今後検討していきたい。                             | 水辺の国勢調査等で植生状況を確認していく。   |
| 13  | 流域治水プロジェクトについて | 絹村委員  | 水田貯留は積極的に実施してほしい。水田貯留は、営農者の理解と協力が必要で、社会貢献的な意味合いが強く、個人的なメリットがない。できるだけ営農者に協力してもらえよう、関係者と協力してほしい。             | 営農者へのインセンティブも必要と考えており、補助金制度等を積極的に活用してもらえようように紹介していきたい。                         | 回答済み                    |
| 14  |                | 溝口委員  | 菊川流域は小さいので、水田貯留等の効果が見えやすい。どこに効果があり、恩恵を受けている地域かを明確化し、恩恵を受ける地域から負担金を分け合うなどの制度が作れると良い。菊川からそのような取り組みが発信できれば良い。 | 積極的に事務局でも協力を促すようにしていきたい。   | 回答済み                    |
| 15  |                | 溝口委員  | 水田貯留の堰板はどのようになっているか。形状によっては、ピーク時には効果が出ない可能性もあると思う。   | 洪水ピークに効かせるため、今年度の実証実験では、堰板を改良したものや、オリフィス形状の排水柵で効果を確認する予定である。                   | 実証実験中                   |
| 16  |                | 渋澤委員  | 流域治水の具体的取り組みに関する指標は全国統一の表記なのか。   | 全国共通した表記で示している。ゼロであることは理解しており、今後各主体で積極的に取り組んでいながら数字をあげられるように進めていく。             | 回答済み                    |